スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県渋川市

自 治 体 名 ： 渋川市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0279-22-2121

実証事業の概要1
渋川市

～地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業～

スポーツ庁

基本情報

面積	24,027㎢
人口	71,273人
公立中学校数	9校
公立中学校生徒数	1,612名
部活動数 （運動部活動のみ）	77部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における現状・課題・方向性および運営体制

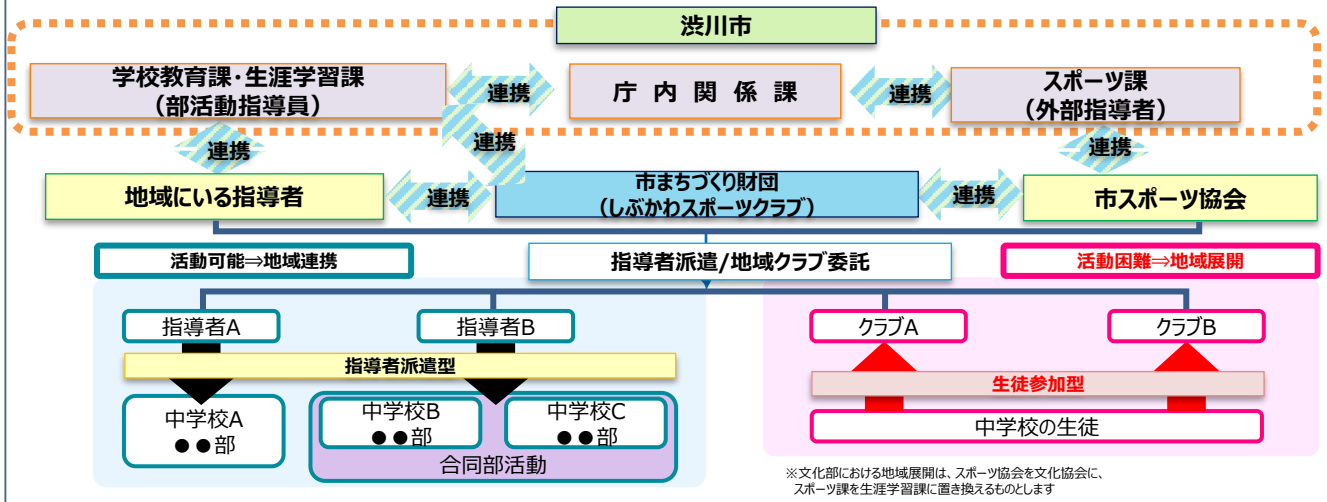
【現状・課題・方向性】

【現状】
- 生徒数の減少に伴い、部活動が休部あるいは廃部の傾向にある。
- 生徒数減少に伴って、教員の配置数も減少し、顧問に係る負担が増加している。

【課題】
- 生徒や学校のニーズにあった指導者を確保できず、地域クラブとしての体制が整わない競技もある。
- 鍵の借用方法や、教室開放をすることによるセキュリティー上の問題がある。
- 体制整備事業による補助金の終了後における指導者報酬や賠償保険、地域クラブ運営費等の費用確保等の難しさがある。
- 活動場所までの保護者送迎の負担がある。

【方向性】
- 部活動地域展開推進に向け、庁内検討委員会や課内会議において課題の整理を行い、課題解決に向けた検討を行う。
- 運営体制の整備に向けた協議を関係団体と行う。

【運営体制】



※文化部における地域展開は、スポーツ協会を文化協会に、スポーツ課を生涯学習課に置き換えるものとします

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	24,027㎢
人口	71,273人
公立中学校数	9校
公立中学校生徒数	1,612名
部活動数 （運動部活動のみ）	77部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

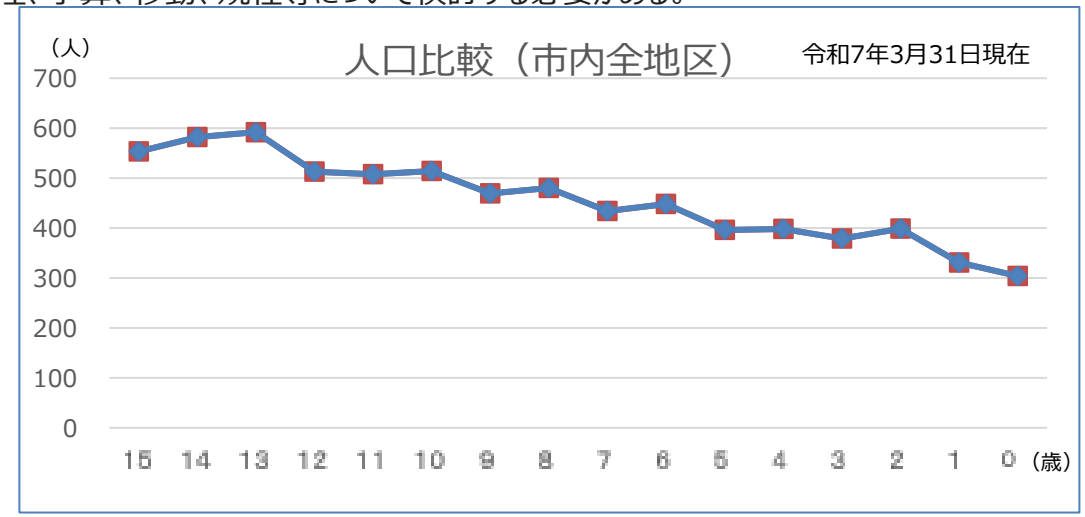
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

渋川市には9つの中学校があり、運動部活動については、14の競技種目がある。また文化部活動については、吹奏楽部・美術部が活動している。

渋川市の子どもは下記のとおり、年々減少傾向であり、その結果、教職員数も減少し、各中学校において部員数不足により部活動が成立しない状況がある。

このような中、渋川市では、「地域連携」として単独または合同チームにより活動が継続できる競技部に対して、部活動指導員や外部指導者を学校に派遣して生徒を指導している。一方で、活動困難な部活動については「地域クラブ」を立ち上げ、その地域クラブに生徒が参加する形で、部活動の地域展開を実施した。

今後の地域展開を進める中で、学校の垣根を越えて地域クラブ活動に移行する体制を構築し、生徒が様々なスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境を整備できるようにするため、指導者確保、施設管理、予算、移動、規程等について検討する必要がある。



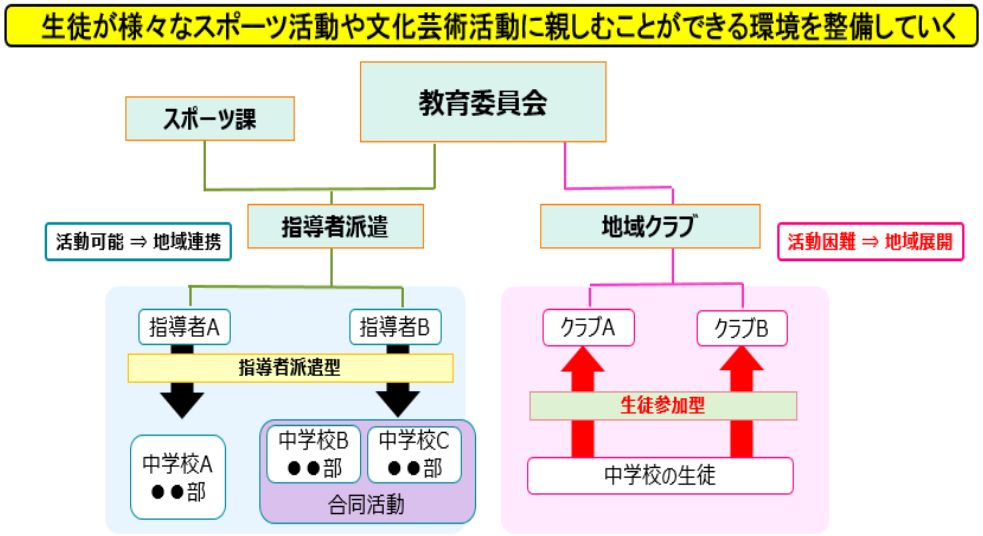
〈渋川市ホームページ上のデータより作成〉

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
・渋川市部活動地域展開の方針策定
・渋川市部活動地域展開事務全般（手続き・契約・報償費支払い等）
・学校、関係団体・地域クラブとの連携

◉市長部局（関係各課）

庁内検討委員会を通して、渋川市部活動地域展開方針の確認や課題解決に向けた協議

年間の事業スケジュール

令和7年4月1日～ 令和8年2月16日	地域スポーツクラブ活動の実施（スケート、体操、軟式野球、バレーボール、バドミントン）、合同練習会の実施（柔道）
令和7年4月	市長部局へ部活動地域展開に関する説明
令和7年5月	令和7年度第1回部活動地域展開庁内検討委員会
令和7年7月～ 令和8年3月	部活動地域展開に向けた課内会議
令和7年8月	市長部局へ部活動地域展開に関する説明 近隣市町村と情報交換
令和7年9月	関係団体へ部活動地域展開に関する説明
令和7年11月	市長部局へ部活動地域展開に関する説明
令和８年2月	関係団体へ部活動地域展開に関する説明

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域展開した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		5クラブ（5部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	28人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
渋川市体操協会	競技団体	体操	・平日　1回 ・休日　1回	（平日） 19:00～21:00 （休日） 12:30～15:30	中学3年：1名 ※小学1年生～高校生まで参加	1年	3人	3人	1,000円/月	中体連
SYC	競技団体	軟式野球	・平日　1回 ・休日　1回	（平日） 19:30～21:00 （休日） 9:00～12:00	1年生：11人 2年生：9人 3年生：11人	1年	15人	15人	3,000円/月	中体連
VC渋川	競技団体	バレーボール	・平日　3回 ・休日　1回	（平日） 19:00～21:00 （休日） 9:00～12:00	1年生：16人 2年生：8人 3年生：15人	1年	5人	5人	500円/月	大会不参加 ※基礎技術力向上のため
渋川スケートクラブ	競技団体	スケート	・平日　2回 ・休日　1回	（平日） 19:00～21:00 （休日） 9:00～12:00	2年生：1人 3年生：1人	1年	4人	4人	5,000円/月	中体連
らいらっく	競技団体	バドミントン	・休日　1回	（休日） 12:30～15:30	1年生：6人	7ヶ月	1人	3人	10,000円/年	大会不参加 ※年度途中新規立ち上げクラブのため

2.実証内容と成果

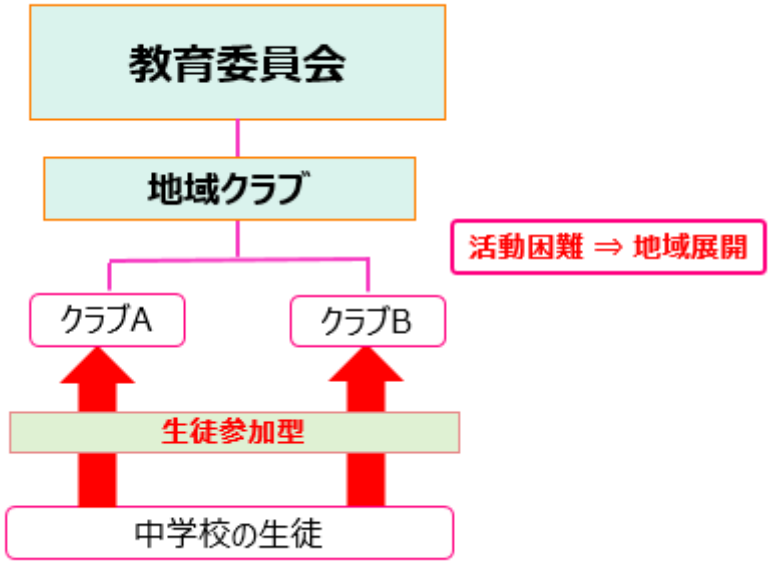
スポーツ庁

主な取組例

●渋川市地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	体操、軟式野球、スケート、バレーボール、バドミントン
運営団体名	各種地域スポーツクラブ
期間と日数	• 体操：月8回程度 • 軟式野球：月8回程度 • バレーボール：月16回程度 • スケート：月12回程度 • バドミントン：月2回程度
指導者の主な属性	教員退職者、自営業者、学生、会社員
活動場所	学校施設や市有料施設
主な移動手段	保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	• 体操：12,000円 • 軟式野球：36,000円 • バレーボール：6,000円 • スケート：60,000円 • バドミントン：10,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体
役割：地域クラブへ本事業のサポートを行う。
●統括責任者
役割：地域クラブの責任者。クラブの運営や指導者の派遣計画の立案等。
●主任指導者
役割：クラブ指導者のリーダー。生徒への技術指導のほか、クラブスタッフへ指導の研修等を行う
●スタッフ：主任指導者のサポートを行う。クラブの方針にのっとり、生徒への技術指導を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・関係部局との連携強化を図るため、全庁的な部活動地域展開に係る庁内検討委員会を開催した。
・部活動地域展開推進委員会の開催に向けて調整を図ったが、人選や協議事項を含めた計画が遅れ、今年度の立ち上げには至らなかった。
・部活動地域展開における現状への理解を促進するため、市内中学校を訪問し、教員や保護者向けの説明会を実施した。
・部活動の地域展開に関するリーフレットを作成し、関係者への情報提供を行った。

今後の取組における課題

・庁内検討委員会について、今後は定期的な開催体制を構築する必要がある。
・市としての方針や計画の検討が不十分であったため、部活動地域展開推進委員会（外部委員を含む）を立ち上げる。
・リーフレットの配付が年1回にとどまったため、今後は定期的に発行し、進捗状況を継続して発信していく必要がある。

取組の成果

・庁内検討委員会において、全庁的に部活動地域展開の方向性を確認・協議できた。今後の基本方針や計画を策定する上で参考になった。
・教員や保護者を対象とした説明を行うことで、少子化に伴う部活動の人数不足等、学校が直面している現状と課題への理解を促すことができた。
・市内の全小中学生（児童・生徒）へリーフレットを配付し、部活動を取り巻く現状についての周知を図ることができた。

課題への対応方針

・庁内検討委員会を定期的に開催するため、次年度の年間スケジュールを早期に策定し、計画的な運営を図る。
・部活動地域展開における方針や計画をより強固なものとするため、定期的な推進委員会を通じて多様な意見を反映させつつ推進する。まずは基本方針を確定させ、それに基づき具体的な計画を策定していく。
・リーフレットの定期発行に向けて、市内の地域クラブや中学校への定期的なヒアリングを実施し、最新の状況把握に努める。また、情報交換会等を開催することで、現場の課題整理を並行して進める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

・指導者の質の保証として市スポーツ協会各競技部と連携し、指導者を派遣した。
・現在配置している部活動指導員及び外部指導員を招集し、指導者研修会を開催した。
・指導者の量の確保として、スポーツ協会をはじめ、様々な関係団体との情報交換を実施した。

今後の取組における課題

・資格取得に向けて費用がかかる点や、長時間の拘束が生じる等の課題があり、資格取得につなげられないことがあった。
・指導者研修会は担当者が行ったが、専門家による講義などを取り入れ、具体的な事例を交えた内容を検討する必要もあった。
・指導者の確保については、今後もスポーツ協会を始めとする様々な団体に協力を依頼し、人材を確保していく必要がある。

取組の成果

・市スポーツ協会との連携により、有資格者の派遣が可能となった。また、資格取得に向けた働きかけも実施した。
・部活動指導員及び外部指導者の合同研修会を開催。スポーツハラスメントや性暴力の未然防止・根絶の徹底を共通認識とし、指導にあたることを確認した。
・スポーツ協会をはじめとする様々な関係団体と、地域展開の推進に向けた情報交換を行った。

課題への対応方針

・資格取得に向けた補助金支給の仕組み作りをし、資格取得を推奨する。
・研修の充実のため、県の派遣制度を活用し、専門家による講義等を取り入れる。
・合同研修会を継続的に実施できるよう計画する。
・各団体への協力依頼を継続するとともに、県の人材バンク登録情報を活用して指導者を確保する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・庁内関係課と連携を図り、積極的な情報共有を行った。
・スポーツ協会やスポーツ少年団の会議等に出席し、関係強化を図った。
・渋川スポーツクラブとは定期的に情報交換を重ね、課題解決に向けた意見交換を行った。
・実施主体等の現状把握のため、中体連の協力を得て部員数調査を実施した。また、合同部活動数についても適宜情報の共有を受け、現状の把握に努めた。

今後の取組における課題

・庁内関係課との連携をさらに拡充していく必要がある。
・スポーツ協会やスポーツ少年団の関係者に対する部活動地域展開の周知が不十分であり、説明の場を設定する必要性があった。
・個別の団体との連携は図れているが、関係組織全体での意見交換や情報交換の場が必要である。
・中体連とも課題を共有し、積極的に情報交換を行っていく必要がある。

取組の成果

・庁内関係課と連携を図ったことで、スポーツ協会やスポーツ少年団等とも連携が図りやすくなった。
・スポーツ協会やスポーツ少年団の会議等に参加したことで関係者とのつながりができ、今後の関係強化に向けた足がかりとなった。
・中体連との連携により、部活動の地域展開を進める上での課題を整理することができた。

課題への対応方針

・庁内関係課との連携を拡充するため、課題に応じたワーキンググループを設置・運営し、課題解決に向けた共通認識の醸成を図る。
・スポーツ団体の会議の場において部活動地域展開の説明を行い、周知を図るとともに、地域クラブとして活動の協力を依頼していく。
・市内の関係組織全体で共通認識を形成するため、部活動地域展開推進委員会を開催する。
・中体連との定期的な情報交換の場を設けるとともに、部活動地域展開推進委員会への代表者の参加を要請する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・国が示したガイドラインを参考に、本市における参加費、保険等に係る費用負担について課内会議において検討した。
・実証研究を行う地域クラブと、クラブ運営に係る必要経費の算出や支援内容について情報交換を行った。
・県内外のシンポジウムに積極的に参加し、各県や各市町村の取組について情報を得るとともに、各種保険の取扱について企業と情報交換を行い、今後の支援の情報を得た。

今後の取組における課題

・参加費用を一律に設定することへの難しさがある。
・傷害保険や賠償責任保険等、支援する範囲と受益者負担とのバランス調整が課題となっている。
・地域クラブ参加費用負担や支援等については、様々な立場からの意見が必要となる。
・参加費用負担や支援等については継続的な部活動地域展開推進委員会の場において検討をしていく必要がある。

取組の成果

・競技によって必要経費が異なるため、低廉な参加費を設定するにあたり参考となる情報交換が地域クラブ関係者と行うことができた。
・地域クラブが必要とする経費や必要な支援について、地域クラブ指導者と情報交換をすることができた。
・指導者への報酬のほか、保険料や運営費用等、クラブ運営に係る具体的な費用を知ることができた。

課題への対応方針

・参加費用の検討を進める上で、地域クラブ運営に係る費用の情報を得ることが必要となる。そのため、情報交換の場を設定する。
・参加費用の負担については、継続的に課内会議において検討を進める。また、庁内検討委員会や部活動地域展開推進委員会を開催し、参加費用負担について意見交換を行い検討を進める。
・保険や支援に関する課題についても同委員会から意見を募り、あわせて検討を進めていく。
・シンポジウムへの参加や情報交換会において、近隣地域の取組を参考にしながら、検討を進めていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

・地域クラブが活動場所として学校施設を使用できるよう、各学校へ協力依頼を実施した。
・市内各中学校と情報を共有し、学校の施設や備品等を活用して地域スポーツクラブ活動を実施した。
・地域クラブの学校施設利用にあたり、他団体との重複を避けるため、施設を管理する関係課と連携して仕組み作りを行った。
・地域スポーツクラブ活動における活動場所の鍵の貸し借りについて、関係団体と意見交換を行った。

今後の取組における課題

・市内各中学校の施設・備品等には限りがあり、老朽化も進んでいるため、今後は新たな器具等の購入を検討する必要がある。
・地域クラブの拡充に伴い、クラブ間で利用施設が重複することが予想される。重複した場合の施設利用の調整や利用時間の調整をする担当者の増員が必要となる。
・市有施設の利用を検討しているクラブがあるため、学校施設以外の利用調整や、使用料の減免申請に関する手続き等の課題が想定される。

取組の成果

・市内各中学校の施設や備品を活用できたため、新たな用具を購入することなく活動を実施できた。
・学校と調整を行ったことで、用具置き場の確保ができ、学校施設の活用について進展が見られた。
・関係課が学校施設の使用調整を行ったことで活動場所を確実に確保でき、他団体との重複も回避できた。
・鍵の受け渡しの簡略についてスマートキーロックの導入を含めた、検討を始めることができた。

課題への対応方針

・安心・安全に地域クラブ活動が行えるよう、必要な器具等の状況を把握し、環境整備を進める必要がある。市内で使用可能な器具や用具の有無についても把握するため、現地調査を行う。
・施設の調整については関係機関と連携を図り、スムーズな施設利用につながるための課題の把握と仕組み作りの検討をしていく。
・まずは学校施設の利用を第一に検討し、市有施設についても関係する施設や団体との意見交換・調整を行う。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は部活動地域展開に向け、3つの柱を中心に進めた。
1つめの柱は地域クラブの拡充である。年度当初より、関係団体へ地域クラブ化に向けた情報交換を行い、体制を整備してきた。継続して取組を進める団体の他に、新たな種目の地域クラブの拡充を図ったが、目標としていた地域クラブ数に到達することができず、達成率は43%に留まった。
2つめの柱は庁内関係各課をはじめ、スポーツ・文化芸術団体の関係者に説明と情報共有を行うことである。部活動地域展開を進める上で共通の認識をもつことが重要と考え柱に据えた。関係団体の会議において説明の機会を設けてもらい、情報を共有することができたことは大変よかった。
3つめの柱は部活動地域移行推進委員会の実施である。今年度部活動地域移行推進委員会を実施するために、部活動推進方針や推進計画を作成し準備は進めてきた。しかし、推進方針や推進計画の見直しに時間を要したことや、国や県の推進計画が新たな移行時期に入ること等が重なったことで実現に至らなかった。

〈地域クラブ〉
■ 渋川市体操協会（体操）
■ SYC（軟式野球）
■ VC渋川（バレーボール）
■ 渋川クラブ（スケート）
■ らいらっく（バドミントン）
■ 〈関係団体会議への出席と関係者との情報共有〉
■ 〈部活動地域移行にかかる会議の実施〉
■ 庁内検討委員会　1回

●成果の評価

〈昨年度の課題〉
■ 生徒や学校のニーズにあった指導者が確保できない。
■ 鍵の借用方法や、教室を開放することによるセキュリティー上の問題がある。
■ 活動場所までの送迎等、保護者の負担がある。

〈成果と今年度の課題〉
■ 指導者確保に向けて関係者や関係する団体に協力を願うことができた。今後の地域展開に向けて、引き続き関係団体に協力を願い、指導者の確保を行っていく。
■ 今年度は鍵の借用方法の解決に向け検討を行った。スマートキーボックスの設置や、アプリの導入等、様々な方策を検討したが、設置施設の検討や費用等の関係で実際の設置には至らなかった。
■ 活動場所までの送迎等の保護者負担については、関係課の協力の下、デマンドバスや路面バスの利用時にかかる費用や時間を整理することができた。

●今後に向けて

■ まずは休日の地域展開に向け、関係団体との調整や、地域クラブ設立に向けた周知活動を行う。
■ 部活動地域展開推進委員会の開催に向け、委員会出席者の調整や議題内容の精選を早期に検討していく。
■ 指導者確保に向けて、関係する団体と連携をする。
■ 施設の使用における課題について、検討・改善を図る。
■ 保護者負担については、送迎や受益者負担の問題を含め、推進委員会において検討できるよう準備をする。
■ 他市町村と連携や情報共有をし、取組むべき課題と推進していく方向性を共有する。
■ 県内外の部活動地域展開先進地に視察をし、知見を広げ、本市の取組の参考にする。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



【体操の活動の様子】



【軟式野球の活動の様子】



【バレーボールの活動の様子】



【スケートの活動の様子】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年7月	令和7年4月	5月	6月	7月	8月
クラブ訪問 活動視察	体制整備事業 説明	地域クラブ化に 向けた情報交換	地域クラブ活動 をするために必要 な書類等の説明	体制整備事業とし て地域クラブ活動 開始	情報交換

- ステークホルダースポーツ競技団体

●経過

- スポーツ少年団で活動する団体へ見学に行き、意見交換を行った。活動を実施するにあたっての不安要素を整理できるよう意見交換を行った。
- 実施内容、工夫した点等
- 立ち上げまでの手順や、活動までの流れ等を説明した。
- 補助金額や、保険加入について説明をした。
- 部活動ガイドラインについて説明を行い、学校部活動の意義を踏まえた指導を依頼した。

- 経過
- 競技団体が中学生の受け入れを開始。
- 部活動地域移行のための地域クラブ化への協力を依頼し、地域クラブ立ち上げについて意見交換を行った。
- 実施にあたって生じた課題
- 活動場所の確保が困難
- 地域クラブ活動開始までの流れや手続きの複雑さ
- 地域クラブが中体連に登録するための資格取得について
- 実施内容、工夫した点等
- 活動場所は学校施設が使用できるよう、関係課と連携し、調整を行った。地域クラブの活動が優先できるよう継続的な検討を進めていくことを関係課と確認した。
- 地域クラブ活動が開始されるまでのサポートを教育委員会が行った。
- 地域クラブが中体連に登録するために必要な資格取得に関わるサポートを関係課と連携し行った。

- 経過
- 地域クラブを立ち上げ、活動を開始した。
- 課題の整理や、今後の改善に向けた情報交換を行った。
- 実施にあたって生じた課題
- 活動場所の確保
- 中体連大会参加について
- 練習試合や合同練習等の交流がもてない
- 実施内容、工夫した点等
- 活動場所を変更するため、施設を管理する関係課と連携し、施設が利用できるよう再調整を行った。
- 令和8年度に中体連に登録し、大会に参加したいとの相談があったため、中体連とつながれるよう支援をした。
- 地域クラブ立ち上げ後、市内中学校部活動との交流を図る支援を行った。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

1. 短期的（令和8年度）
- 体制整備事業を拡充し、部活動地域展開の受け皿の拡充を図る。
- 部活動地域展開コーディネーターを2名配置（予定）し、クラブ運営のマネジメントや制度の整備を進める。

2. 改革期間前期（令和10年度までに）
- 市内全中学校の土日の部活動を地域のクラブ活動へ展開完了を目指す。
- 部活動地域展開コーディネーターを総合型地域スポーツクラブに配置（予定）し、クラブマネジメント、事務運営を行う。

3. 改革期間後期（令和13年度までに）
- 平日も含めた部活動の地域展開を拡充する。
- クラブマネジメント業務を総合型地域スポーツクラブに委託する仕組みの構築。